

泉ピン子、呉智英、高田明、釜本邦茂、長谷川和夫…

「安楽死」

& 尊厳死

私はこう考える



自分の最期、家族の最期、
どうすれば苦しまずに済むか

自分の死に時くらい、自由に決めた。——長生きが必ずしも「幸せ」ではなくてきたからこそ、「安楽死」や「尊厳死」が注目されている。苦しみなから生きるくらいなら、穏やかな死を選びたいと願う人は少なくないが、日本では議論も法整備も進んでいない。身近な人の死を経験し、自らの死にも思いを巡らせる各界の著名人に、自身の考えを聞いた。

熱海の自宅で医師に「どうしますか」と問われて

泉ピン子が語る橋田壽賀子さんの最期 「私が管を抜いてください」と言いました」

今年4月4日、「おしん」

『渡る世間は鬼ばかり』など数多くの作品を手がけた脚本家の橋田壽賀子さんが、急性リンパ腫のため95歳で亡くなった。橋田さんはかねて、「死に方くらい、自分で決めてたい」と明かしていた。92歳の時に上梓した著書『安楽死で死なせて下さい』には、

「病院にせよ自宅でせよ、ただベッドに横たわって死を待つなら、そうなる前に死なせてほしい」と、綴られている。

人に迷惑をかける前に死にたい——橋田さんの意思表明には大きな反響があり、「安楽死」や「尊厳死」を巡る議論に注目が集まるようになった。



「ママ」と慕っていた(映画「おしん」製作発表にて)

日本尊厳死協会理事の丹澤太良氏が解説する。「そもそも『安楽死』とは、医師による致死量の薬品投与などで死に至らせる、限りなく自殺に近い行為」を指します。一方、「尊厳死」は医学で

は手の施しようがない疾患で死期が目前に迫る患者が、人工呼吸器などの延命治療を拒否し、自然に近い状態で死を迎え入れることを言います。安楽死は、ベルギーやスイスなどでは合法だが、

日本では法的に認められず、過去には関わった医師らが刑事罰に問われたこともある。尊厳死も法制化されておらず、「グリーゾーンの状態」(丹澤氏)となる。

そうした曖昧さもあり、本人が尊厳死を望んでいても周囲が

延命治療を選択してしまふこともある。

夫を先に亡くしていた橋田さんは前出の著書で、

私もあんな死に方がいい

「(酸素吸入の)管を抜きますか?」と先生に聞かれて、「抜いてください」と伝えました。するとママは、眠るようになり、声も出さず亡くなりました」

そう明かす泉さんによれば、1か月ほどの入院生活を送っていた橋田さんは、本人の希望で4月3日に熱海の自宅に戻った。そして、翌日に息を引き取ったという。「亡くなった日は人工呼吸器をつけていて、すご

く息が苦しうに見えました。ママはずっと『老衰で死にたい』と言っていましたが、最期を決める家族が誰もいなかった。先生に『管を抜くとうなりますか?』と聞いたから、『息が浅くなり、苦しまずに楽になります』とおっしゃったので、ママの友達と一緒に『じゃあ、取ってください』とお伝えしました。そうすると、本当に息が浅くなって普通に寝ている状態のようになって…。

『週刊ポスト』次号(7月2日号)は6月18日(金)発売です

一部地域で発売日
が異なります

「神」か「悪魔」か？

【新事実・新証言を発掘】
本格評伝、誕生

辻政信の真実

失踪60年——伝説の
作戦参謀の謎を追う

前田啓介

絶賛発売中！
定価1,210円税別

「ママ！」って叫んだら一度パチッと目を開けて、私と目が合ったんです。それからまた目をつぶって、そのまま息を引き取りました」

そんな橋田さんの最期を見て、「私もあんな死に方をしたいと思った」と、泉さんは語る。

「病院から戻ったら、自宅の窓から満開の桜が見えて、『ママ、桜だよ』って。何十年もかけて大きくなった桜が、絵画のようになってね。それが、ママが亡くなったら雨が降って全部葉桜になったの。周りにはお手伝いさんや私や友達がいる。そんな理想的な死に方ってある？ 最高ですよ」

結局、橋田さんが考えていた「安楽死」とは違うかたちとなったが、周囲からは穏やかな最期に見えたという。泉さんはこの経験を通して「死について考えた」と続ける。「いくら安楽死を望んでいても、死期に合わせて

（外国人でも安楽死ができる）スイスに行けるわけではない。そもそも『100歳まで生きる』と言っていた人が、あんなに急に死ぬんですからね。ママを見て、『自分の思った通りには死ねないんだ』って、改めて難しさを感じました」

また、橋田さんの延命治療を止めたことについては、複雑な心境を語る。「ママは、本当は死ぬことが怖かったんじゃないかな、とも思うんです。口では『安楽死、安楽死』って言うってんだけど、本当はすごく臆病で、もっと生きたかったんじゃないかな。そうでなければ、血液検査のために毎月2

回も病院に通わないし、あんなにたくさん薬を飲まないでしょう。でも、もし私が同じ立場だったら管を抜いてほしい。だから、その判断について後悔はしていないという気持ちです」

そう言った後に、「で

も正直、ずっと後悔はするかな。間違いじゃなかったのかなって……」とも付け加えた。安楽死や

戒名はいりません

橋田さんは生前、エンディングノートを書いたと話していたというが、「亡くなってみたら、それがなかった」という。「全部細かく書いてあるって言うってのにね……。ママが言っていたのは、『お別れ会をしないでくれ』『誰にも知らせないでくれ』だった。『華やかな葬式をしてくれ』って言うと思っていたから意外でした。だからお葬

式はごく簡単なものにして、霊柩車も使わず、ただのバンみたいな車。お棺も焼いちゃうんだから一番安い木にして、お葬式には39万円くらいしかかかってないの。お経は私があげて、戒名はいらないって言うっていたから、『橋田壽賀子』ですよ」

そうして看取りを終え、改めて「死ぬことが人生で一番大変なんじゃないかな」と感じたという泉

さん。この経験が、自分の「人生の終え方」を考えるきっかけにもなったと話す。

「安楽死が日本の法律で認められれば私も望みますが、法制化されていない今の状況では反対です。尊厳死は大賛成。認知症とかでよくわからなくなつて夫に暴言を吐くとかは嫌だし、管だらけになるのも嫌だから『私が役者として人前に出られなくなったら殺して』と（医師である）主人には伝えていきます。人間として、最期は尊厳を持ちたいの」

身近な人の死を側で見ることは、「生を見つめ直すきっかけ」にもなる。

権利と捉えるような議論も登場している。「決断」が必要な局面に備えて、

「理想の死に方」「避けたい最期」

自らの死、身近な人の死に深くかわかることだからこそ、安楽死、尊厳

死には賛否がある。近年は「自らの死に方を自由に決める」ということを

一人ひとりが自分の考えを持つことも重要だ。各

気持ちよく逝きたい

「重病になって苦しむのは嫌ですね。糖尿を患い、肺炎も併発したのに、医学の進歩で死ねなかった母は、最後の1年ははずっと、早く死にたい」と言っていた。安楽死も尊厳死も賛成です」

そう断言するのは、評論家で作家の呉智英氏（74）。前述の通り、日本では安楽死は違法、尊厳死はグレーとされるが、呉氏は、「2つに違いはあるのでしょいか」と問いを投げかける。

「安楽死と尊厳死、または単なる自殺の場合でも、その線引きは難しい。たとえば、20歳の若者が人生をはかなくて死を望むことと、80歳で老い先が短く治る見込みのない病気を患った人が

界の著名人はどう考えるか。意見を聞いた。

死を望むことに、どこまでの違いがあるのでしょうか。

もちろん、20歳の若者が失恋して自殺を望んでいれば『やめなさい』と止めるに決まっています。30歳で難病を患っている場合はどうなるのか。線引きをしようとする、結論が出なくなる。私としてはそこを厳密にせず、安楽死も尊厳死も認めるのがいいと考えます」

「まだ死ねない」という思いも

明確に賛成という意見もあれば、「まだ決められない」という声もある。通信販売大手「ジャパネットたかた」の創業者で実業家の高田明氏（72）だ。

「私はある時期から、『17歳まで生きる』と言ってきました。『今を生

呉氏の母親は、亡くなる半年前に発症した肺炎から回復した後、何度も「あの時に死ねばよかった」と話していたという。

「なかなか『そうだね』とは言えませんよね（苦笑）。でも、もう糖尿で足の骨が露出しかけて、痛いし、苦しい。尊厳死にできたら良かったのかなと思います。一方で、医学的にどうやるのかの問題はある。麻薬のようなもので、意識レベルを下げていくことになるのか。とにかく、気持ちよく死んでいくのがいいって思うね」

「答えを出す時ではない」と考えているという。「（東大名誉教授の）姜尚中さんが『長崎新聞』（5月27日付）「コトノハとの出会い」に寄せた原稿に、〈全てのわざには時がある。〉（中略）あらゆる物事には起こるべきタイミングがある。この10年で僕も変わりました。時が熟成して初めて分かることがある」と書かれていました。

「全てのわざには時がある」とは旧約聖書の一節だそうですが、いつか私も安楽死や尊厳死と向き合う時が来るのだと思います。その時に考えればいい、という思いです。ただ、年齢を重ね、「死について考えるようになってきた」とも語る。「死というものに縁遠かった60代から、70代になった今、心身ともに衰える部分はあるわけで、だんだんと、考えないといけないのかな」と思うようにもなりました。

「答えを出す時ではない」と考えているという。

「全てのわざには時がある。〈中略〉あらゆる物事には起こるべきタイミングがある。この10年で僕も変わりました。時が熟成して初めて分かることがある」と書かれていました。

「死というものに縁遠かった60代から、70代になった今、心身ともに衰える部分はあるわけで、だんだんと、考えないといけないのかな」と思うようにもなりました。

「死というものに縁遠かった60代から、70代になった今、心身ともに衰える部分はあるわけで、だんだんと、考えないといけないのかな」と思うようにもなりました。

仲間と死に際について話す時も、60代の頃は『管を20本つないでも生きる』と言っていたいまも、

「安楽死と尊厳死についての考えは、自分の年齢や心身の状態だけではなく、周りの環境によっても変化すると思います。安楽死を否定はしませんが、死というのは自分だけのものではない。『家族のためにまだ死ねない』ということもあり得るでしょう。周りに対する責任を果たせた。自分の役割は終えた」と思

「安楽死と尊厳死についての考えは、自分の年齢や心身の状態だけではなく、周りの環境によっても変化すると思います。安楽死を否定はしませんが、死というのは自分だけのものではない。『家族のためにまだ死ねない』ということもあり得るでしょう。周りに対する責任を果たせた。自分の役割は終えた」と思



「考えは時間とともに変化する」とした高田氏



呉氏は「安楽死に賛成」と断言した

海外生活なし、留学経験なしでも、「ニューヨークタイムズ」の記者になった

純ジャパニーズの英会話勉強法

上乃久子 中館書



もし、家族が死を望んだら……

「自分の最期は安楽死でもいいけど、家族が重病の時に死なせる決断ができるかといったら、それはできない」

そう語るのは、元日本サッカー協会副会長の釜本邦茂氏(77)だ。この問題を考える時、家族が苦しんでいたらどうするか」という視点も重要だ。

理想の最期を「両親のような逝き方」だと言う釜本氏は、03年、04年と続けて両親を見送った。

90歳で他界した母、95歳で亡くなった父ともに、「誰にも迷惑をかけない最期」だったと振り返る。「死に目には会えませんが、死に目は会えませんが、両親の逝き方が僕の理想。母は自宅の

布団で眠るような最期を迎え、先に母を亡くした父は、老人ホームに入居した1年後に逝きま

した。2人とも最後まで認知症もなく、身の回りのことも自分でできた。あんな最期を迎えたいと思います」

そうした両親の最期を手本とする釜本氏は、「家族に迷惑をかけたくないから、安楽死と尊厳死に賛成」の立場を取る。法整備も進めたほうが良いと考えている。

ただ、「あくまでそれは選択肢のひとつ」とも強調する。

「知人のなかには過剰にも思える延命治療を受けている人がいる。その家族はやはり、看護や介護で大変な思いをしています。そういう状況を見ると、自分が周りに迷惑をかけるためには、尊厳死はもちろん、安楽死でもいいと思います。けれども、家内や子供たちが生死の境にいるような事態になったら、一

日でも長く生きてほしいと願うでしょう。今回の取材に答えるにあたって家内に聞いたら、『家族には(安楽死の判断を)できない』と、私と同じことを言っていました」

家族が安楽死や尊厳死を望んでいたら、その考えを支持できるのか――。

死は本人だけの問題ではなく、残された人たちの問題でもある。そのため、「元氣なうちから家族で話し合っておくことが大切になるでしょうし、さらには、本人の意思を書面で確認できるケースに限るといったルール作りが必要ではないでしょう」

認知症になったとしても

「父は、尊厳死については明確に賛成しています」

そう語るのは、認知症研究の第一人者であり、自身が認知症を患っていることを公表している長谷川和夫氏(92)の長女、南高まり氏(58)だ。

うか」と、釜本氏は言う。

「制度の整備を進めるなら、70歳の誕生日を迎えた時点で安楽死や尊厳死の意思を役所に届け出るといった仕組みがあったほうがいいのではないか。考えが変わったら更新すればいい。認知症になったら、本人の意思が確認できないケースもあるから、書面のかたちで家族が確認できるようにしておくのです。安楽死や尊厳死を認めるなら、残された家族が判断に苦しむことのないような仕組みづくりが重要だと思っています」

「父は95年に、母と一緒に『日本尊厳死協会』に入会しました。クリスチャンである父はよく『生かされている』という言葉を使います。それは、人間は『人に支えられて生かされ、また、神に生

かされている」という意味です。

病気やケガなどで回復の見込みがない場合に点滴やチューブでつながれて、ただ生かされる、そうした自分の意志が届かない状態は望まない」と父は話します」

17年に「嗜銀顆粒性認知症」と診断された長谷川氏は、尊厳死を望む意思をどのように表明しているのだろうか。

「13年、父がまだ現役だった頃、尊厳死の宣言書と、『事前願ひ』として亡くなった時に連絡してもらいたい宛先や葬儀に関する要望が書かれた手紙を預かりました。何かあった時はこの通りにしてくれ、ということでした」

どんな死に方を望むか本人にも、家族や周りの人間にとっても重大な判断となる。だからこそ、自分の意思の伝え方について、一人ひとりが考えることが重要になる。



長谷川氏はすでに尊厳死の宣言書を用意しているという



釜本氏は「家族と話し合うことも重要」と強調した

死ぬまで
SEX
34ページ
大増量

おっばいが一番感じるの…

透けるトッパ

石原慎太郎が絶賛した
立木義浩の「実写春画」

田中裕子、松坂慶子、桃井かおり……
1981年「濡れ場」の当たり年

バスト100
爆乳8

富士山大噴火と南海大地震

大図解 新ハザードマップに記された「連動巨大災害」



後藤久美子

Momoco
写真館ふたたび

カネに目ざとい
投資家がツバをつけた
「コロナ収束後」
に上がる株 **25**

週刊 **ポンス**
スペシャル合併号!

スクープ

厚労省報告書に衝撃の記載——搬送中の車から家族の目の前で……
ワクチン接種4日後、25歳男性は「飛び降り死」した

「免疫力アップ」を信じてはいけない

「コロナ効果」を謳った167商品に消費者庁が改善要請

2021年6月7日(月)発行・発売(毎月第1日発行・発売)第53巻第22号通巻第2607号昭和44年9月11日創刊33周年創刊号

2021 Jun. 6.18/25 特別定価520円

それでもやる
のか

五輪スポンサー「秘議事録」を公開する
中止世論を逆転させる「無観客は認めない」

組織委に抱え込まれた朝日、読売ほか大新聞社員の任務と給料
「菅さまのNHK」が五輪中止論をまったく放送しなくなった事情
145万円チケットがキャンセル不可で購入者が泣いている

安楽死、私はこう考える「自由な死」を望んだママに、娘はこう応えた
泉ピン子「橋田先生の管を抜いてください」

「お父さん、なんて死に方してくれただの!」
こんな死に方では
家族がバラバラ
妻と子がいがみ合う「ダメな死に方」遺産でもめない「キレイな死に方」
そうならないための手続き **25**

昭和のガリスマからの金言 愛弟子の証言集
川上哲治から森祇晶へ / 古賀政男から小林幸子へ
中曽根康弘から島村宣伸へ / 林家三平から林家へーほか
仰天 天皇陛下の「お供え物」をやフオクに出品した伊勢神宮職員

